

報道機関 各位

資料提供 令和8年10月7日
秋田県立大学
生物資源科学部 生物環境科学科
教授 木村 憲一郎 [専門：森林経済学]
TEL 018-872-1626
【広報担当】
ディレクター 佐藤 琢麻
TEL 018-872-1521
E-mail: koho_akita@akita-pu.ac.jp

桐材輸入の実態を解明：過度な海外依存とコスト高騰に警鐘 — 本学教員の研究成果が『日本森林学会誌』に掲載 —

生物資源科学部生物環境科学科の木村憲一郎教授[専門：森林経済学]は、過去約40年分の貿易データを詳細に分析し、長年未解明であった桐材の輸入実態（調達国・形状・価格動向など）を初めて明らかにしました。

■研究の背景と要旨

日本の伝統的な生活文化を支えてきた桐製品ですが、その原料となる桐材の輸入実態は十分な把握がなされていませんでした。かつて全国2位の桐生産量を誇った秋田県をはじめ、国内の伝統的産地では産業の衰退と海外依存の深まりが課題となっています。現場で役立つ森林政策や生産システムの構築を目指す木村教授は、約40年分の貿易データを網羅的に分析し、さらに関係者への精力的なインタビューを実施。その結果、日本の桐材調達における深刻なリスクとコスト構造の変化が浮き彫りになりました。

【分析により明らかになった主な課題】

○調達先の過度な集約（サプライチェーンの偏在）

かつては世界各地から輸入されていた桐材ですが、現在は「原木はアメリカ」「加工材は中国」という特定の2カ国に著しく偏在しています。

○コスト構造の変動（国産・輸入材の価格逆転兆候）

近年の為替変動（円安）等の影響を受け、輸入単価が大幅に上昇。
「海外産＝国産より安価」という従来の前提が崩れつつあります。

【本研究の意義】

本研究は、データの数字を整理したことにとどまらず、日本の伝統産業・森林政策が抱える潜在的な脆弱性を浮き彫りにし、国産桐の再評価に向けた具体的根拠を提示しました。大きく分けて以下の4つの意義があります。

○約 40 年間の実態不明を解明

これまで桐材が「どこから・どんな形で・いくらで」届いているのか、体系的なデータとして把握されていませんでした。約 40 年分という長期的かつ網羅的な貿易データを分析したことで、業界や生産者、政策決定者が客観的な数値に基づいて議論できる土台を初めて作った点が学術的に大きな成果です。

○サプライチェーンの「地政学・経済リスク」の可視化

「原木はアメリカ」「加工材は中国」という極端な二極化の実態を突き止めました。特定国への過度な依存は、供給国の輸出政策や急激な為替変動などが起きた際に、日本の桐製品産業が打撃を受けるリスクを可視化しました。

○「輸入＝安い」という固定観念の打破

輸入桐は為替変動の影響を受けやすく、近年の円安基調下にあっては海外産の方が安いという長年の業界の前提が崩れつつあることを示しました。コスト面での輸入桐の絶対的優位性が失われつつあるという動向を数字で証明したことで、国産桐へシフトすべき経済的合理性を提示しています。

○「国産桐の再評価」と「地域林業・文化の継承」への架け橋

単なる分析のみならず、海外依存からの脱却、国産桐の再評価、および国内加工体制の再構築という解決策を示しています。桐箆笥（たんす）や伝統工芸などの日本文化を守るだけでなく、各地の森林資源を活かし、地域経済や生産システムを再生させるための実践的な提言をしています。

木村教授の専門である「現場で役立つ森林政策」の言葉通り、日本の伝統文化と国内林業の未来をリアルなデータで守るための警鐘であり、再スタートの道しるべとなる点に最大の意義があります。

【今後の展望と提言】

過度な海外依存は、情勢変化や為替影響による供給不安定化を招きます。日本の伝統的な桐文化と産業を守るためには、輸入先の分散にとどまらず、国産桐の再評価および国内加工体制の再構築が急務であると結論付けています。

なお、この知見を発展させ、「国産桐の可能性と未来」に焦点を当てた続報論文は、別途学術誌に掲載予定です。

■ 成果掲載誌

本研究成果は、学術誌『日本森林学会誌』に、令和8年9月20日付けで掲載されました。

○論文タイトル 『桐材輸入の変遷と現状』

○著者 木村憲一郎（秋田県立大学 生物資源科学部 生物環境科学科 教授）

ODOI <https://doi.org/10.4005/jjfs.108.219>

■ 助成事業

本研究の一部は、公益社団法人国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド（7公B-6）」の支援を受けて実施されました。

■ 問い合わせ先

<研究に関すること>

- ・秋田県立大学 生物資源科学部 生物環境科学科
教授 木村 憲一郎（きむら けんいちろう）

TEL 018-872-1626 Email kimurak@akita-pu.ac.jp

<報道担当>

- ・秋田県立大学広報

ディレクター 佐藤 琢麻（さとう たくま）

TEL 018-872-1521 Email koho_akita@akita-pu.ac.jp

以上

桐製品のイメージ



桐の木

